

令和元年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（外国語）

身に付けさせたい力	高学年
	<ul style="list-style-type: none"> ○外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする力 ○外国語での基本的な表現ができる力



児童の実態	高学年			
	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童もいる。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○あいまいな理解に耐え、少しでも聞き取ろうとする児童が少ない。 </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">6年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童も多い。 ○発音や、英語での発表に自信をもてない児童が多い。 ○ALTの問いかけに、意欲的に答える児童もいる反面、英語が苦手な児童が得意な児童に任せてしまい、全員への習熟に結びつかないことがある。 </td> </tr> </table>	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童もいる。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○あいまいな理解に耐え、少しでも聞き取ろうとする児童が少ない。 	6年
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童もいる。 ○英語を発話することに対して、抵抗感を持っている児童がいる。 ○あいまいな理解に耐え、少しでも聞き取ろうとする児童が少ない。 			
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○ALTの発音や、デジタル教材の音声を意欲的に聞こうとする児童が多く見られるが、基礎的な言語力に差があるため、理解につながらない児童も多い。 ○発音や、英語での発表に自信をもてない児童が多い。 ○ALTの問いかけに、意欲的に答える児童もいる反面、英語が苦手な児童が得意な児童に任せてしまい、全員への習熟に結びつかないことがある。 			



授業改善の具体的な手立て	高学年			
	<table border="1"> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを図る活動の際には少人数で行い、なるべく全員が発言できるよう学習形態を工夫する。 ○一人一人が参加することのできるゲーム内容にする。ゲームの目的を明確にし、なぜ行うのかを理解させる。 ○あいまいさに耐え、少しでも言えた、通じたという体験を増やし、ほめ認めていく。 </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">6年</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○その単元で必要な表現でスモールトークを展開し、児童が必然性をもって話すことができるようにする。 ○一人一人が発言し、授業に参加できるように、学習形態を工夫する。 ○一人一人が自信をもって表現できるように、単語や表現の仕方を繰り返し練習できるようにする。 ○学習形態をパターン化することで、児童が授業や英語の表現に慣れていくことができるようにする。 </td> </tr> </table>	5年	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを図る活動の際には少人数で行い、なるべく全員が発言できるよう学習形態を工夫する。 ○一人一人が参加することのできるゲーム内容にする。ゲームの目的を明確にし、なぜ行うのかを理解させる。 ○あいまいさに耐え、少しでも言えた、通じたという体験を増やし、ほめ認めていく。 	6年
5年	<ul style="list-style-type: none"> ○コミュニケーションを図る活動の際には少人数で行い、なるべく全員が発言できるよう学習形態を工夫する。 ○一人一人が参加することのできるゲーム内容にする。ゲームの目的を明確にし、なぜ行うのかを理解させる。 ○あいまいさに耐え、少しでも言えた、通じたという体験を増やし、ほめ認めていく。 			
6年	<ul style="list-style-type: none"> ○その単元で必要な表現でスモールトークを展開し、児童が必然性をもって話すことができるようにする。 ○一人一人が発言し、授業に参加できるように、学習形態を工夫する。 ○一人一人が自信をもって表現できるように、単語や表現の仕方を繰り返し練習できるようにする。 ○学習形態をパターン化することで、児童が授業や英語の表現に慣れていくことができるようにする。 			

令和元年度 文京区立本郷小学校 授業改善推進プラン（外国語）

		高学年
成果（○）と課題（●）	5 年	<p>○ゲームを通して楽しくコミュニケーションを図ることができた。また、フラッシュカードを用いて繰り返し単語を練習することで、英会話に親しむことができた。</p> <p>○既習の表現を用いて、会話を続けることができるようになってきた。リアクションや表情も豊かになってきている。</p> <p>●一斉指導の際には、積極的に声を出して表現することができたが、個人活動やペア活動になると、どのように表現したらよいのか忘れてたり、消極的になり声に出すことができなかつたりすることが多い。また、積極的な友達に表現をまかせきりになることもある。一人一人に表現が身に付くように、一人一人が声を出して練習するなど学習形態を見直す必要がある。</p>
	6 年	<p>○毎回のグリーティングやスモールトークを通して、英語表現を用いたやり取りに抵抗なく取り組むことができるようになった。</p> <p>○単元の終末に、自分で書いた英文を用いてプレゼンテーションを行うという活動を設け、目的意識もてるような活動にすることで、児童が意欲的に学習に取り組む姿が見られた。</p> <p>●授業に向けたALTとの打ち合わせをより綿密に行い、授業内容により、明確な役割分担を行う必要があった。</p>